【別紙２】

審査の結果の要旨

氏名　　深澤　舞子

本研究は、2011 年３月に発生した東京電力福島第一原子力発電所の事故後、周辺地域の放射線レベルが住民の精神健康へ影響を与えているか否かを明らかにするため、福島県内の空間線量率と事故から５年後に実施された質問紙調査により得られたデータを解析したものであり、下記の結果を得ている。

１．地域住民の放射線に関する不安の程度には、福島県内の市町村間でばらつきがあり、平均空間線量率の高い市町村に居住する住民ほど、放射線に関する不安が高い傾向が見られた。

２．東日本大震災直後の空間線量率より、事故から５年後の調査時点における空間線量率のほうが、住民の放射線に関する不安と強く関連していた。

３．個人の要因として、女性より男性で、高齢者よりも若者や中年者で、大学卒業以上の学歴の者よりも教育年数の比較的短い者で、また世帯人数で調整した世帯収入の少ない者、既婚者、東日本大震災による直接被害のあった者、震災に関連した家族関係の変化のあった者、原子力発電所事故直後の恐怖や不安が強かった者で、調査時点における放射線に関する不安が高い傾向が見られた。

４．住民の精神症状については、心理的ストレス反応、心的外傷後ストレス障害の症状、身体症状を測定したが、これらはいずれも、市町村ごとの平均空間線量率との関連は見られなかった。

５．住民の放射線に関する不安は、心理的ストレス反応、心的外傷後ストレス障害の症状、身体症状のいずれとも統計的に有意に関連していた。

以上、本論文は原子力発電所の事故後の周辺地域の放射線レベルと、事故から５年後の住民の精神健康との関連を検討し、地域の放射線レベルは住民の放射線に関する不安と関連しているものの、精神健康とは関連していないことを明らかにした。原子力発電所の事故という、長期にわたり周辺住民の精神健康に影響を与えることが知られている災害に関して、事故後の地域の放射線レベルの影響については十分に知られていなかったが、本研究は、災害後の住民の精神健康に影響を与える既知の要因を調整したうえで、地域の放射線レベルによる影響を明らかにしたもので、災害精神保健の分野に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。